ONKYO

WAVIO AV SYSTEM

PCI DIGITAL AUDIO BOARD

SE-150PCI

インストールマニュアル

ご使用になる前に 2

接続する 11

パソコンの設定 14

再生する 24

録音する 26

その他 30

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「インストールマニュアル」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

特長

先進のデジタル技術と高度なオーディオノウハウを融合して、徹底したノイズ低減を実現した画期的オーディオボード。新回路設計、デジタル出力端子装備、金メッキ端子採用など、圧倒的なサウンドパフォーマンスでこれからのデジタルオーディオ時代に対応します。

■ SN比110dB：徹底したノイズ低減を実現するVLSC回路を搭載（2チャンネル出力専用端子）

■ オーディオ用部品の選択から配置まで徹底した高品位設計

■ VIA社ENVY24HTオーディオコントローラー採用

■ デジタル入出力：最大24bit/96kHz

■ 超大型電解コンデンサー・銅バスプレート採用など高級オーディオアンプなみの基板構成

■ 7.1チャンネル出力対応

■ A3D・EAXによる3Dサウンド対応

本製品をお使いいただくにあたり、下記注意事項をお読みいただき、正しくお使いください。

- 本書は、マウスやキーボードの使用方法など、Windowsの基本的な操作についてすでにご存知であることを前提に書かれています。
- 本製品を運用した結果の影響については一切の責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、誤操作、不具合により生じた損害などの純粋経済損失については、その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本書の内容は、将来、予告なく変更されることがあります。
- 本書の一部または全部を無断で貸し出し、転載することは固くお断りします。
- WAVIO AV SYSTEMの名称およびロゴはオンキヨー株式会社の商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標です。
- Microsoft®、Windows®、Windows® XP、Windows® Me、Windows® 2000 Professionalは、米国 Microsoft corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- 本書に記載されているハードウェアおよびソフトウェアの名称は、各社の商標もしくは登録商標です。

目次

特長 2
目次 3
オーディオ機器の正しい使いかた 4
製品構成
製品構成 8
各部の名称と働き 8
マルチ入出力コードについて 9
マルチチャンネル再生時のスピーカー配置例 9
必要なシステム構成 10
詳細な情報について 10
オーディオボードの取り付け
BIOS の設定 11
オーディオボードの取り付け 12
オーディオ機器との接続例 13
ドライバのインストール
ドライバのインストール（Windows XP の場合） 14
ドライバインストールの確認 17
オーディオデバイスの確認 17
オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使用方法について
オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の起動方法 18
マルチチャンネルスピーカーのボリュームを調整する（再生） 18
マルチチャンネルスピーカーの接続状況を確認する（スピーカー設定） 19
パソコンから出力される音声ボリュームを調整する（ソース） 19
外部機器と接続してアナログ録音を行う（録音） 20
外部機器と接続してデジタル録音を行う（Digital In） 20
デジタル OUT を使用する、2ch 音声をヴァーチャルサラウンド再生するなど
その他拡張設定を行う（拡張設定） 21
QSound を使用する（QSound） 22
再生のしかた
パソコンの音声をアンプ内蔵の PC 用スピーカーで再生する（ライン出力） 24
パソコンの音声を 5.1ch デジタルホームシアターシステムで再生する 25
録音のしかた
アナログ録音の設定をする 26
デジタル録音の設定をする 26
サウンドレコーダーの使いかた 27
ライン入力のアナログ音声をパソコンに入力する 28
主な仕様 30
故障かな?と思ったら 31
修理について 33
お客様ご相談窓口 33

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください

絵表示について

この「インストールマニュアル」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにPC（パーソナルコンピュータ）本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に改造しない

分解禁止

- 本製品を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。 火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本製品は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら

- 万一、本製品の内部に水や異物が入った場合は、すぐにPC本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

- 万一、誤って本製品を落としたり、破損した場合は、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。必ず販売店にご相談ください。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本製品を他のオーディオ機器やテレビ等の機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■取り付けと静電気について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 本製品の取り付けは、必ずPC（パーソナルコンピュータ）本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。電源を入れたままでの取り付けは、絶対にしないでください。火災や感電の原因となります。

- 本製品を装着する場合や、ボードに触れる場合には、アースが接続されているものに触れ、身体の静電気を取り除いておいてください。
- 本製品は部品の帯電による故障防止の為、静電気防止袋で保護されています。装着の準備が整うまで、本製品を静電気防止袋から取り出さないでください。
- 本製品に触れるときには、縁や取り付けの金属部分を持つようにしてください。ボード上の部分や端子部分には触れないでください。
- プラスチック、ビニール、羊毛の繊維製品等静電気を発生しやすいものは遠ざけておいてください。
- 冬場など空気の乾燥した時期には静電気を取り除く際に、衝撃を受けることがあります。この場合には金属製のスプーンなどを手にしっかり握り、スプーンの先で水道管に触るようにすれば、放電の衝撃を和らげることができます。

オーディオ機器の正しい使いかた

⚠注意

■点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のためPC本体の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。

  本製品の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本製品にかけないでください。変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

♪音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分しましょう。
特に静かな夜間には、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

製品構成

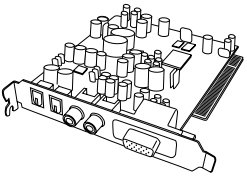
■ 製品構成

（ ）内の数字は数量を表しています

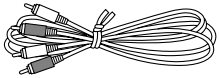
インストールマニュアル
（本書1）

保証書（1）

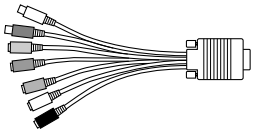
インストールCD-ROM（1）



オーディオボード（1）



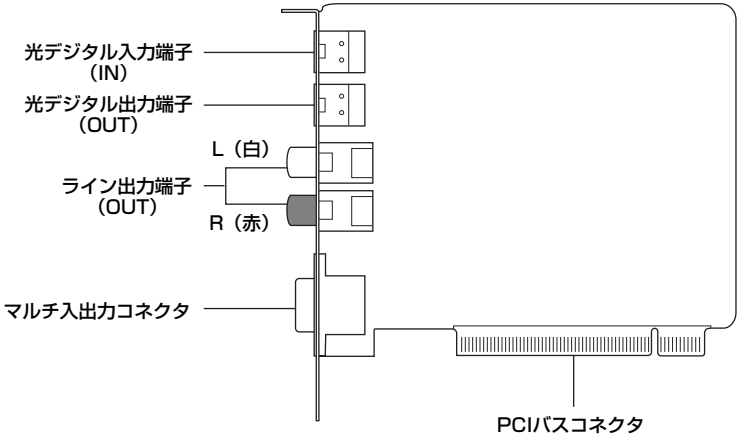
オーディオ用ピンコード（1.5 m）（1）



マルチ入出力コード（190 mm）（1）

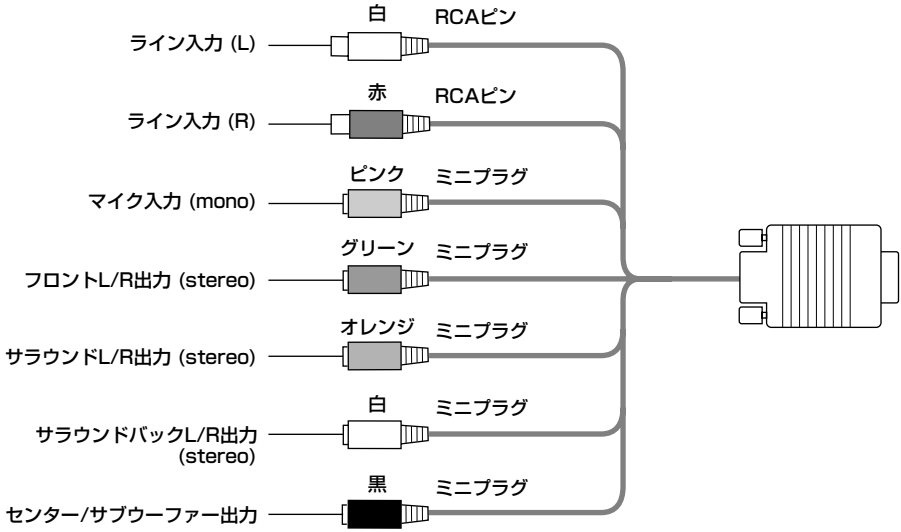
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内（1）

■ 各部の名称と働き

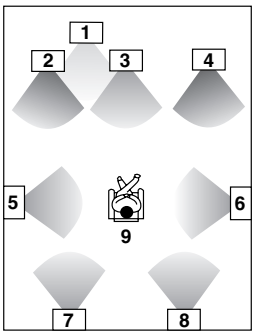


製品構成

■ マルチ入出力コードについて



■ マルチチャンネル再生時のスピーカー配置例



1　サブウーファー
2　左フロントスピーカー
3　センタースピーカー
4　右フロントスピーカー
5　左サラウンドスピーカー
6　右サラウンドスピーカー
7　左サラウンドバックスピーカー
8　右サラウンドバックスピーカー
9　リスニングポジション

製品構成

■ 必要なシステム構成

- Intel Celeron 800MHz以上（Pentium III 800MHz以上推奨）
- 128MB以上のメモリー
- 40MB以上のHDD空き容量
- PCIバス空きスロット1つ（Ver. 2.1以上）を持つPC/AT互換機
- ソフトウェアインストール用のCD-ROMドライブ
- Windows® XP* SP1またはSP1A以降日本語版、Windows 2000* SP3以降
  * システム管理者権限（Administrator）でのみ使用可能です。

■ 詳細な情報について

当社Webサイト（http://www.jp.onkyo.com/wavio/）には最新の情報や追加・変更情報が公開されていることがあります。作業を始める前に当社Webサイトをご確認頂くことをお勧めいたします。また、ドライバ等の更新もWebサイトにて行います。

オーディオボードの取り付け

ご注意

オーディオボードの取り付けを始める前に、必ず「オーディオ機器の正しい使いかた」の注意事項を確認してください（4〜7ページ参照）。

■ BIOSの設定

PCによってはオーディオ機能をマザーボードに内蔵しているものがあり、そのままの状態では本製品が正しく動作しない場合があります。
本製品を使用するには、BIOSセットアップユーティリティでマザーボードのオーディオ機能を無効にすることを推奨します。PCのオーディオ機能、BIOSセットアップユーティリティについては、PCに付属のマニュアル等をご確認ください。

1. PCの電源を入れます。
2. Windowsが起動する前に、BIOSセットアップユーティリティを起動します。
3. オーディオデバイスが有効になっていれば、無効に設定します。（ゲームポートとMIDIポートの設定項目があればそちらもあわせて無効に設定します。）
4. 設定を保存し、BIOSセットアップユーティリティを終了します。

オーディオボードの取り付け

■ オーディオボードの取り付け

1. PC（パーソナルコンピュータ）と周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きます。
2. PCのケース金属部分に触れ、身体の静電気を放出します。

   ご注意

   静電気の放出を行わないと、ボードやPC本体を破壊することがあります。

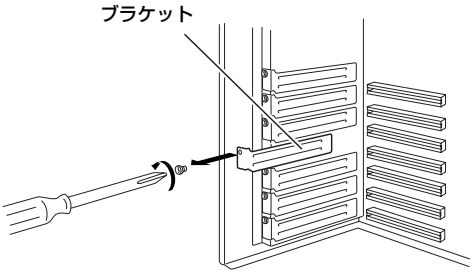
3. PCのケースをはずします。

   ♪ヒント

   ケースのはずし方は、お手持ちのPCの取扱説明書を参照してください。
4. PCIバス拡張スロットの位置を確認し、拡張スロットのブラケットを止めているネジをはずします。
5. ブラケットを取りはずします。はずしたブラケットは保管しておいてください。

   ご注意

   PC内部やボードには突起がありますので、けがをしないように注意してください。



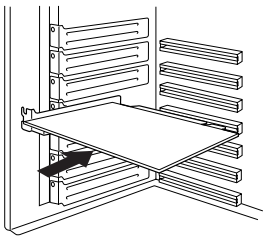
ご注意

ドライバーはネジにあったものをご使用ください。ネジにあわないドライバーを使用されますと、ネジを破損するおそれがあります。

♪ヒント

はずしたネジはボードの取り付けに使用します。

6. メインボードの金属端子部分やピンを曲げないように注意してPCIバスコネクタにまっすぐに挿入します。



ご注意

この時メインボードが拡張スロットにしっかり挿入、固定されているか必ずご確認ください。
正しく挿入されていないと、認識できなかったり誤動作の原因となる場合があります。

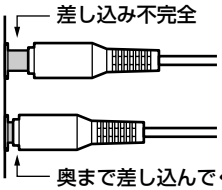
7. 手順4で取りはずしたネジでメインボードを拡張スロットに固定します。

オーディオボードの取り付け

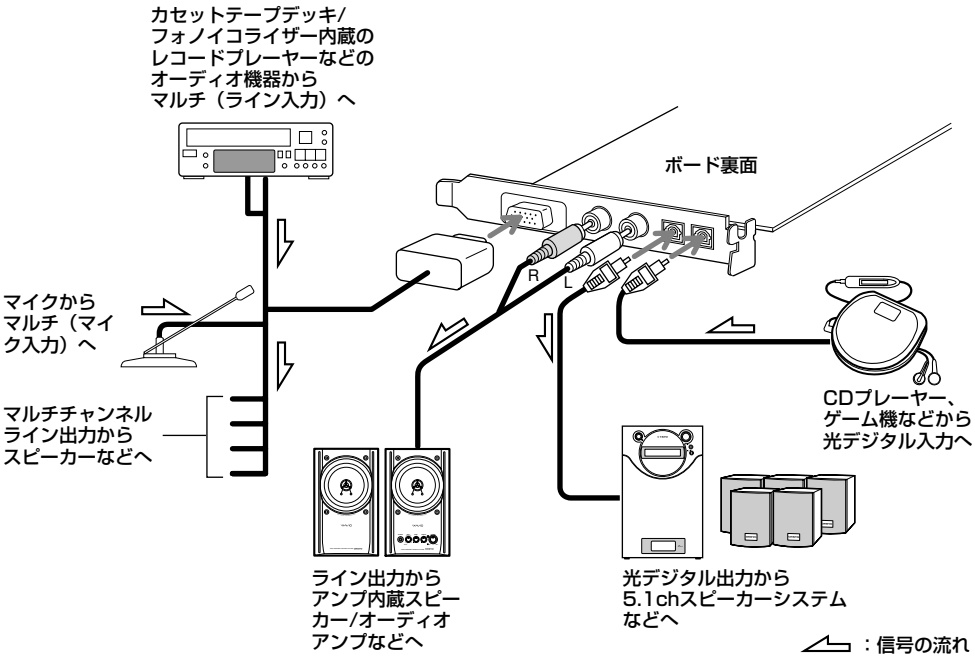
〈接続する前に〉

- オーディオ用ピンコードは、次のように接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

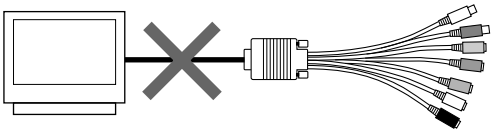


■ オーディオ機器との接続例



ご注意

マルチ入出力コードとPCのディスプレイ接続用コネクターは接続しないでください。



ドライバのインストール

OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

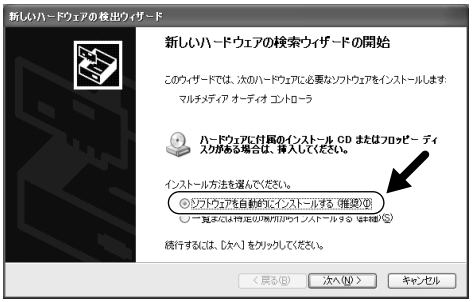
■ ドライバのインストール（Windows XPの場合）

ご注意

インストール作業を開始する前に必ずPCの電源が切れていることを確認してください。

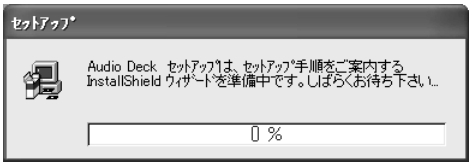
1. パソコンの電源OFF状態であることを確認して、SE-150PCIをPCIの空いているスロットに差し込みます。
2. SE-150PCIが確実にパソコンに取り付けられていることを確認した上で、パソコンの電源をONにしてください。
3. Windowsが起動すると「新しいハードウェアの検出ウィザード」ウィンドウが開きますが、「ソフトウェアを自動的にインストールする」が選択されているのを確認した上で、右下に表示されている「次へ」をクリックして、完了させてください。

   WindowsXP SP2をご利用の場合は、SE-150PCIが検出されますと、「ソフトウェア検出のため、Windows Updateに接続しますか」の画面が表示されます。
   その場合は、［いいえ、今回は接続しません］を選択し、[次へ]をクリックします。



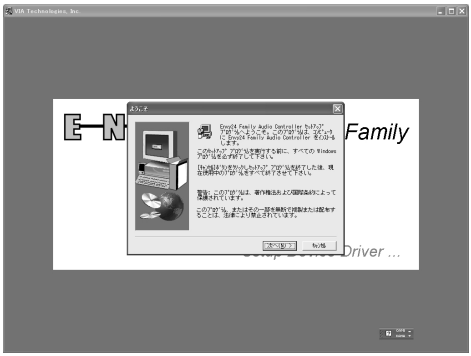
4. パソコンのCD-ROMドライブにSE-150PCIのインストールCD-ROMを挿入して、Driverフォルダを開いてください。
5. DriverフォルダにあるSetupファイルをダブルクリックしてドライバのインストールを始めます。

6. しばらく待つとセットアップがスタートします。



ドライバのインストール

7. 「ようこそ」の画面が表示されますので内容を確認した上で「次へ」をクリックしてください。

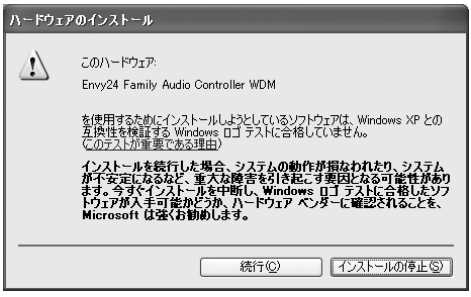


8. 「コンポーネントの選択」画面が表示されますので「Install Envy24 Family Audio Device Driver」が選択されているのを確認した上で「次へ」をクリックしてください。

9. 「インストール先の選択」画面が表示されますのでプログラムのインストール先を指定した上で「次へ」をクリックしてください。特に指定がない場合はこのまま「次へ」をクリックしてください。

10.インストールの途中で次のウィンドウが表示された場合は「続行」をクリックしてインストールを進めてください。

※「Windowsロゴテストに合格していません」という警告メッセージが表示された場合は、「続行」をクリックしてインストールを進めてください。動作上、問題のないことを弊社では確認済みです。



ドライバのインストール

11.「セットアップの完了」ウィンドウが表示されますので「完了」をクリックしてパソコンを再起動してください。

12.以上でインストールは終了です。

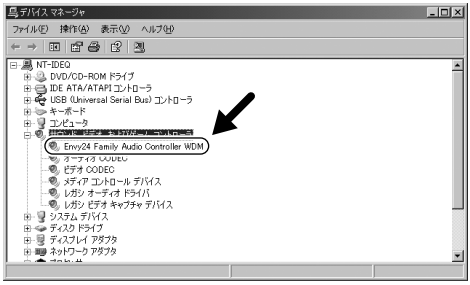
ドライバのインストール

■ ドライバインストールの確認

ドライバのインストール終了後、「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」を開き、「システム」をクリックします。「システムのプロパティ」画面で「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」のボタンを押します。デバイスマネージャ画面で次のデバイス名が正常に認識されているか確認してください。

サウンド、ビデオ、およびゲームのコントローラ

- Envy24 Family Audio Controller WDM



ヒント

OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

Windows 2000の場合は、「コントロールパネル」→「システム」を開き、「ハードウェア」タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンを押します。

■ オーディオデバイスの確認

「コントロールパネル」→「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」を開き、「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。サウンドとオーディオデバイスのプロパティ画面で、「オーディオ」タブを選択します。
音の再生の既定デバイス・録音の既定デバイスが「Envy24 Family Audio (WDM)」になっていることを確認してください。

ヒント

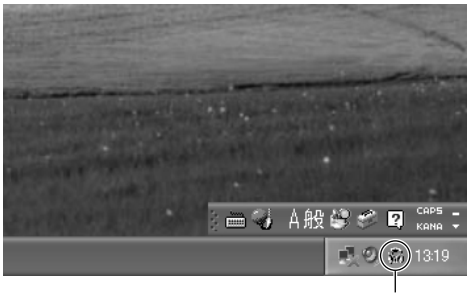
OSのバージョンによって表示される画面構成や文字が違う場合があります。

Windows 2000の場合は、「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」を開き、「オーディオ」タブを選択します。

オーディオコントロールパネル(Audio Deck)の使用方法について

■ オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の起動方法

タスクトレイ上のオーディオコントロールアイコンをクリックして起動させることができます。
もし拡張設定タブの設定（21ページ）で「Windows起動時にコントロールパネルを起動する」のチェックをはずしている場合はスタート→すべてのプログラム→Audio Deck→Audio Deckを選択して起動します。



オーディオコントロールアイコン

■ マルチチャンネルスピーカーのボリュームを調整する（再生）

「再生」パネルではパソコンから出力される音声に関する設定を行います。

♪ヒント

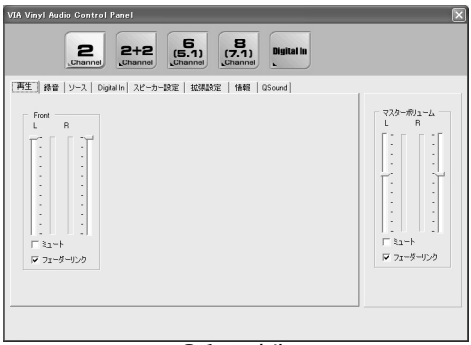
2チャンネルライン出力には使用しません。

マルチ入出力コードから4ch以上のスピーカーを接続している場合は上部の正方形のボタンからつないでいるスピーカーの数に合ったボタンを選んでクリックしてください。選択されたスピーカーの数に応じた画面に切り替わります。

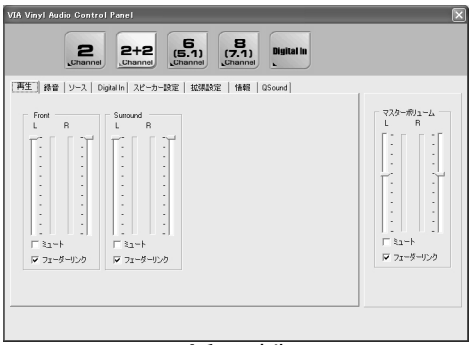
ボリュームフェーダー
各スピーカーのボリューム量を調整します。調整しているボリュームの枠内にあるフェーダーリンクのチェックボックスにチェックがついている場合は枠内のボリュームフェーダーは同期して上下に移動します。

ミュート
枠内のスピーカーの音声を止めたい場合にクリックしてチェックをつけます。
もう一度クリックするとチェックが外れ、音が出ます。

フェーダーリンク
枠内のボリュームフェーダーが同期して上下に移動します。別々にボリュームフェーダーを調整したい場合はフェーダーリンクのチェックボックスをクリックしてチェックを外してください。

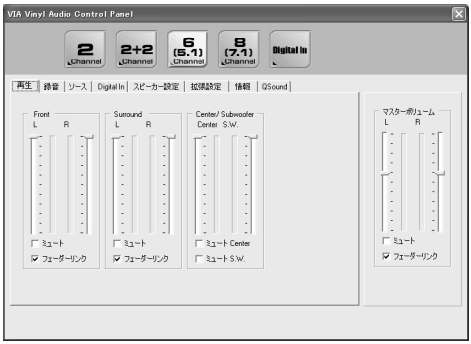


2チャンネル

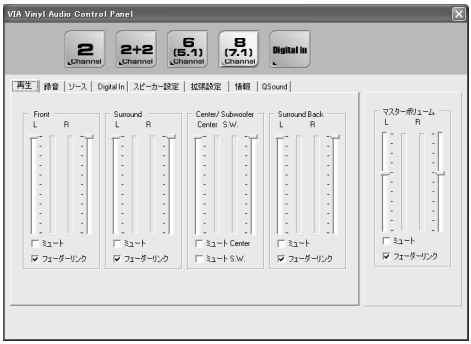


4チャンネル

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使用方法について



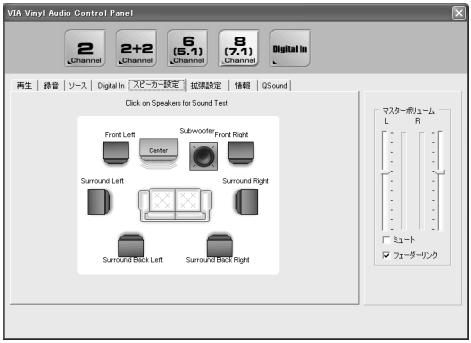
6チャンネル



8チャンネル

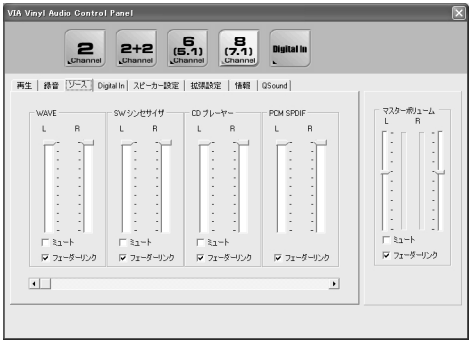
■ マルチチャンネルスピーカーの接続状況を確認する（スピーカー設定）

「スピーカー設定」パネルでは接続しているマルチチャンネル出力の各スピーカーのサウンドチェックを行います。
サウンドチェックを行いたいスピーカーをクリックしてください。選択したスピーカーのアイコンが点灯している間に選択したスピーカーからテストサウンドが出力されます。



■ パソコンから出力される音声ボリュームを調整する（ソース）

「ソース」パネルではパソコンから出力される各音声に関する設定を行います。



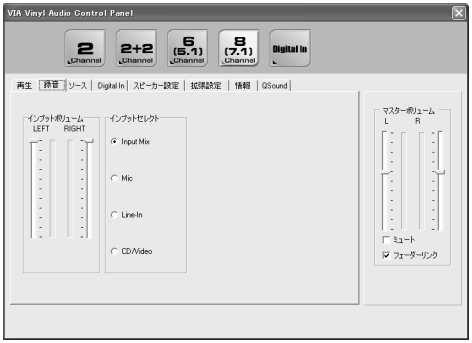
ボリュームフェーダー
各音声のボリューム量を調整します。調整しているボリュームの枠内にあるフェーダーリンクのチェックボックスにチェックがついている場合は枠内のボリュームフェーダーは同期して上下に移動します。

ミュート
枠内の音声を止めたい場合にクリックしてチェックをつけます。
もう一度クリックするとチェックが外れ、音が出ます。

フェーダーリンク
枠内のボリュームフェーダーが同期して上下に移動します。別々にボリュームフェーダーを調整したい場合はフェーダーリンクのチェックボックスをクリックしてチェックを外してください。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使用方法について

■ 外部機器と接続してアナログ録音を行う（録音）



「録音」パネルではパソコンのハードディスクに録音を行う場合に入力を切り替えたり入力レベルを切り替えることができます。

インプットボリューム
インプットセレクトで選択された入力音声の入力レベルを調整します。

インプットセレクト
パソコンに入力する音声を切り替えます。

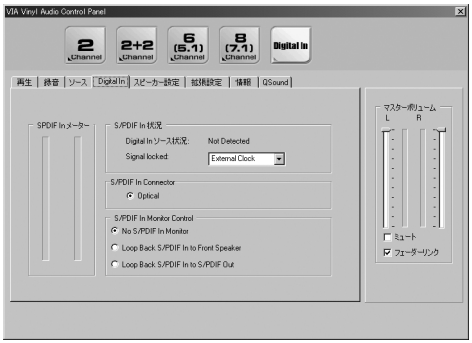
Input Mix…Mic・Line-In・CD/Videoの入力をすべて有効にします。

Mic…マイク入力のみを有効にします。

Line-In…マルチ入力コードのライン入力のみを有効にします。

CD/Video…SE-150PCIのボード上に内部接続された入力のみを有効にします。

■ 外部機器と接続してデジタル録音を行う（Digital In）



「Digital In」パネルではデジタル入力時の設定を行います。上部の「Digital In」が選択された状態で設定操作を行ってください。

SPDIF Inメーター
デジタル入力端子に接続されている外部機器のボリュームレベルを表示します。

S/PDIF In状況

Digital Inソース状況…デジタル入力端子に接続されている外部機器から出力されている音声が正しく入力されいるかを表示します。外部機器からの音声が止まっている場合や、正しく出力されていない場合は「Not Detected」と表示されます。正しく入力されている場合は「Detected」と表示されます。

Signal locked… 通常はExternal Clockでご使用ください。

S/PDIF In Connector
デジタル入力端子を選択します。SE-150PCIでは「Optical」が常時選択されています。

S/PDIF In Monitor Control
デジタル入力を行う場合に音声をモニターするかを設定します。

No S/PDIF In Monitor…デジタル入力時に音声をモニターしません。

Loop Back S/PDIF In to Front Speaker…デジタル入力時にマルチチャンネル出力のフロントスピーカーで、もしくは2ch専用出力からその音声をモニターします。

Loop Back S/PDIF In to S/PDIF Out…デジタル入力時にデジタルアウトにその音声を出力します。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使用方法について

■ デジタルOUTを使用する、2ch音声をヴァーチャルサラウンド再生するなど その他拡張設定を行う（拡張設定）

「拡張設定」パネルではさらに細かい設定を行うことが出来ます。

サンプリングレート情報
サンプリングレート選択で選ばれたサンプリングレートが表示されます。

サンプリングレート選択
デジタルアウト端子から出力するサンプリングレートを選択します。音楽を再生中に選択を切り替えた場合に変更を有効にするには一旦再生を停止してから再度再生を行ってください。

Immezio 3D Effect
QSoundおよびEAX・A3Dなどのサラウンド効果を有効にする場合は「Sound Effects / 3D Gaming Support」のチェックボックスにチェックをつけてください。この設定を有効にするにはシステムの再起動が必要です。設定有効後、QSoundのページが表示されます。QSoundの各設定についてはQSoundの項を参考にしてください。

Digital Outを使用する
デジタルアウト端子からのデジタルアウトを有効にするにはチェックをつけてください。デジタルアウトを行わない場合はチェックを外してください。

S/PDIF Out Control
デジタルアウト端子から出力する音声の形式を選択します。
マルチチャンネル対応のAC3形式と2ch出力用のPCMの両方を出力するかどちらか一方を出力するかを選択します。

設定
その他の設定を行います。

タスクバーにMicrosoftスピーカアイコンを表示します…タスクバーにMicrosoftスピーカアイコンを表示する場合はこのチェックボックスにチェックをつけてください。

Windows起動時にコントロールパネルを起動する…Windows起動時にコントロールパネルを起動する場合はこのチェックボックスにチェックをつけてください。

Center/LFE Swap…マルチチャンネル出力の黒（センターおよびサブウーファ出力）の接続端子は左チャンネルにセンタースピーカー、右チャンネルにサブウーファー出力が割り当てられています。この出力を反転させて左チャンネルにサブウーファー、右チャンネルにセンタースピーカーを割り当てる場合はこのチェックボックスにチェックをつけてください。

ステレオエキスパンダー…マルチチャンネル出力使用時にステレオ2チャンネルの再生音を擬似的に4チャンネル以上のマルチチャンネルに割り振って聴く場合にこのチェックボックスにチェックをつけてください。この設定は、再生中の音声については一旦再生を停止した後から有効になります。

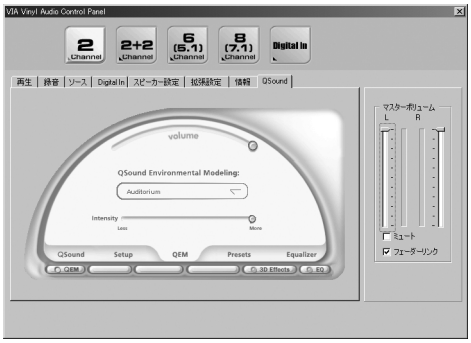
オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使用方法について

■ QSoundを使用する（QSound）

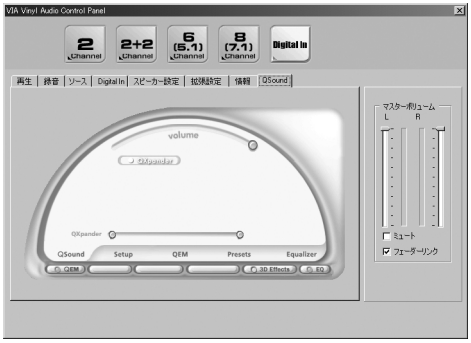
「QSound」パネルでは「QSound」を利用してさまざまなサラウンド効果やイコライザ機能を付加して再生することができます。

QEM…残響効果などを付加します。
下段のQEMボタンを押してグリーンのランプが点灯している間に効果は有効となります。効果を無効にする場合は再度ボタンを押してランプを消灯させてください。

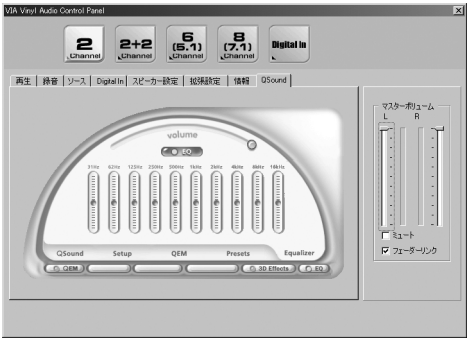
QEMの残響効果の設定についてはQEMパネルを選択して残響効果の種類とその効果の強さをパネル上で設定してください。



3D Effects…2chスピーカーでの3次元的な広がり感を付加します。
下段の3D Effectsボタンを押してグリーンのランプが点灯している間に効果は有効となります。効果を無効にする場合は再度ボタンを押してランプを消灯させてください。
3D Effectsの設定についてはQSoundパネルを選択して効果を調節してください。



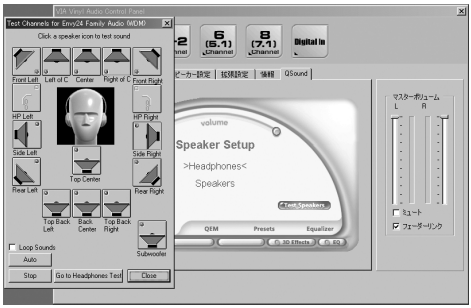
Equalizer…イコライザー機能を使用します。
下段のEQボタンを押してグリーンのランプが点灯している間に効果は有効となります。効果を無効にする場合は再度ボタンを押してランプを消灯させてください。
イコライザーの設定についてはEqualizerパネルを選択してください。



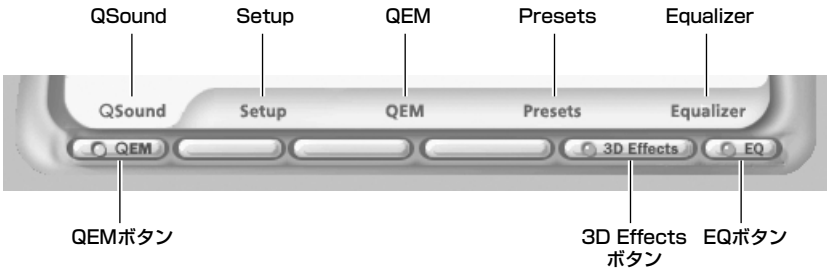
Presets…イコライザーのプリセットを呼び出します。

オーディオコントロールパネル（Audio Deck）の使用方法について

Setup…QSoundのサウンドチェックを行う場合はSetupパネルを選択してTest Speakersのボタンをクリックしてサウンドチェック画面を開いてください。



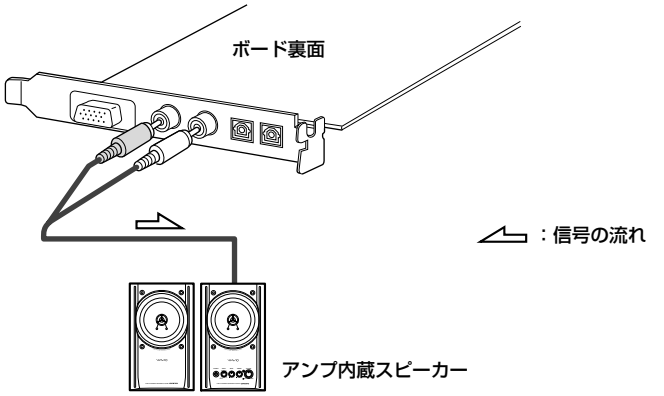
QSoundパネルで使用するボタンとタブ



再生のしかた

■ パソコンの音声をアンプ内蔵のPC用スピーカーで再生する（ライン出力）

1. PCスピーカーを図のようにSE-150PCI本体に接続します。



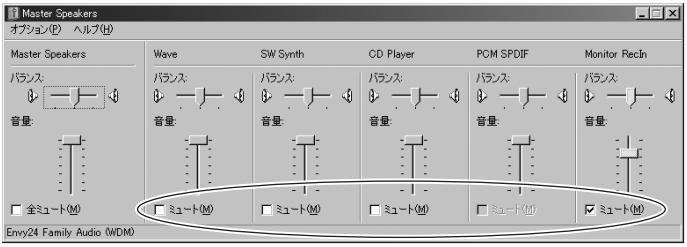
2. ボリュームコントロールを開き、再生したい音声の「ミュート」のチェックボックスにチェックが入っていないか確認し、入っている場合はチェックを外してください。
   お使いのパソコン環境によっては、ミキサーコントロール等の名前の場合もあります。

＜Windows XPの場合＞

1.「スタート」→「コントロールパネル」を選択します。
2.「サウンド、音声、およびオーディオデバイス」をクリックします。
3. コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイス」をクリックします。
4.「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」ウィンドウで、「オーディオ」タブを選択します。
5.「音の再生」の「音量」ボタンを押します。

＜Windows 2000の場合＞

1.「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「サウンドとマルチメディア」を開きます。
2.「オーディオ」タブを選択します。
3.「音の再生」の「音量」ボタンを押します。

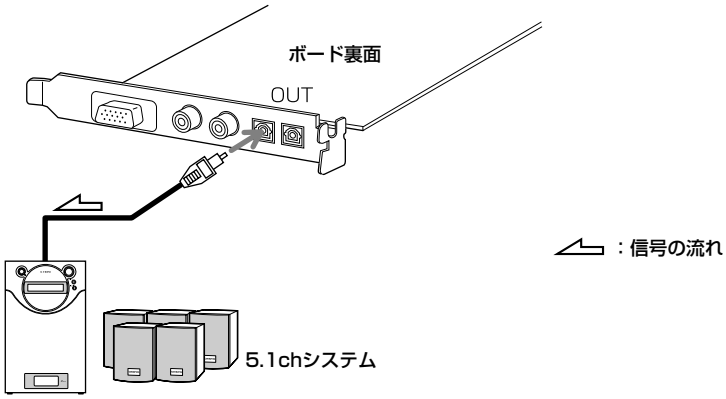


3. Windowsに付属の「Windows Media Player」などで音声を再生します。

再生のしかた

■ パソコンの音声を5.1chデジタルホームシアターシステムで再生する

1. 5.1chシステムを図のようにSE-150PCI本体に接続します。



2. DVDプレーヤーソフトなどで音声を再生します。

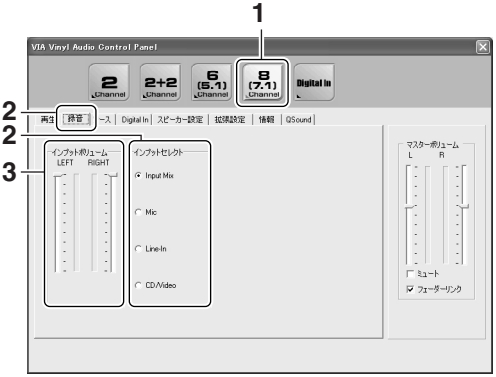
ご注意

Windows 2000 Professionalで5.1chデジタルの再生をおこなう場合は、SP3以降がインストールされている必要があります。

録音のしかた

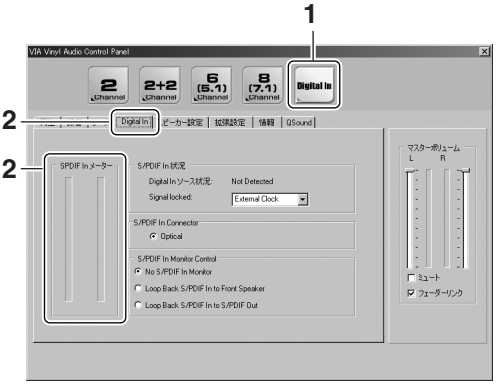
■ アナログ録音の設定をする

1. Audio Deckを起動し（18ページ）、上部の正方形のボタンを押して「Digital In」以外を表示させます。
2. 録音タブを選択し、インプットセレクトでセレクターを選びます。
3. インプットボリュームで録音レベルを調整します。



■ デジタル録音の設定をする

1. Audio Deckを起動し（18ページ）、上部の正方形のボタンを押して「Digital In」を表示させます。
2. Digital Inタブを選択し、録音ソース側の音声を再生して、SPDIF Inメーターが動いていることを確認します。



録音のしかた

■ サウンドレコーダーの使いかた

「スタート」→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「サウンドレコーダー」で起動します。
サウンドレコーダーでは、音声を様々なフォーマット、ビットレートでPCに録音することができます。

詳しくは、Windows付属のドキュメントまたはヘルプを参照ください。

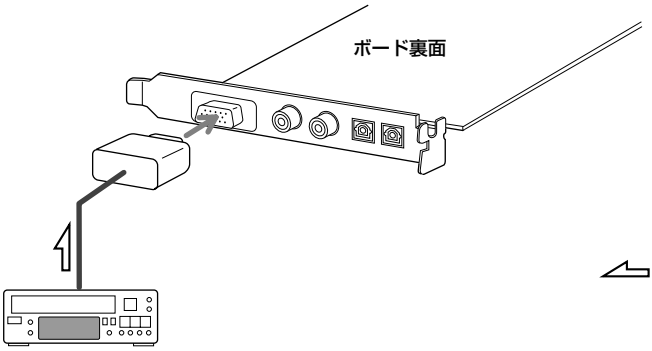
♪ヒント

サウンドレコーダでは、約1分程度の音声をWAVE形式のファイルで録音できます。他の形式での録音や、さらに長い時間での録音を行う場合は、別途サウンド録音のソフトウェアをご用意ください。

録音のしかた

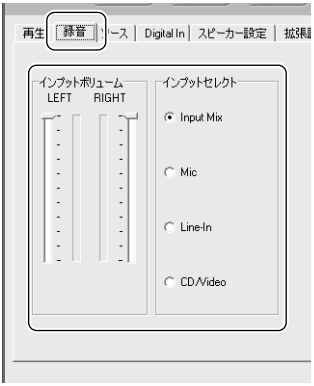
■ ライン入力のアナログ音声をパソコンに入力する

1. アナログ再生させる機器を図のようにSE-150PCI本体に接続します。



2. 録音タブを選択し、「インプットセレクト」で録音したい音声を選択します。

   インプットボリュームで録音レベルを調整します。



   ♪ヒント

   ライン入力での録音コントロールの音量について

   LPレコードやカセットテープなどは、出力レベルが低いため、ライン入力の録音レベル（音量）は上から1目盛を目安に調整してください。
   CDやDATなどは、出力レベルが高いので、ライン入力の録音レベル（音量）は下から1目盛りを目安に調整してください。

3. サウンドレコーダーを起動します。

録音のしかた

4. サウンドレコーダーの「ファイル」メニューから「プロパティ」を選択します。Soundのプロパティ画面で、「変換」ボタンを押します。サウンドの選択画面が表示されます。

5. 「形式」で録音したいオーディオフォーマットを選択、「属性」でサンプリングレートなどを選択し、「OK」を押します。

6. サウンドレコーダーの録音ボタンを押すと録音が開始されます。同時に録音したい音源の再生を行ってください。

ヒント

- 録音レベルの調節は、直接入力しているソースの入力レベルを調節してください。
- ライン入力からの録音中に「ボリュームコントロール」および「録音コントロール」の音量を動かすと、録音レベルが変化しますので、動かさないでください。

あなたが録音したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません

主な仕様

接続方式：	PCIバス（PCI ver. 2.1以上）	
デジタル入力サンプリング周波数：	32kHz/44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz	
デジタル出力サンプリング周波数：	32kHz/44.1kHz/48kHz/88.2kHz/96kHz	
周波数特性：	0.3Hz ～ 44kHz（+0/−0.5dB, ライン出力）	
	0.3Hz ～ 20kHz（+0/−0.5dB, マルチ出力）	
SN比：	110dB（A-フィルタ, ライン出力）	
全高調波歪率：	0.003%（1kHz, 0dB）	
ライン出力レベル：	2.0Vrms	
マイク入力感度：	100 mV(rms)	
音声入力：	デジタル	DIGITAL IN×1（光）
	アナログ	ANALOG IN×2（ステレオRCA, 内部接続）
	マイク	MIC IN×1（Φ3.5mm/モノラル）
音声出力：	デジタル	DIGITAL OUT×1（光）
	アナログ	2ch ANALOG OUT×1（ステレオRCA）
	マルチチャンネルプリ	7.1ch ANALOG OUT（Front L/R, Center, Surround L/R, Surround Back L/R）
	サブウーファープリ	7.1ch ANALOG OUT（Subwoofer）
外形寸法（幅×高さ×奥行）：	22×121×163 mm	
質量：	160g	

仕様および外観は、性能向上のため予告なく変更することがあります。

◎本製品の入力と出力の関係は以下のとおりです。

出力 / 入力	2ch専用出力	マルチ出力（フロント2ch）	マルチ出力（フロント2ch以外）	デジタルアウト
PC音声	○	○	○（設定要）(1)	○（設定要）(2)
LINE	×	○	×	×
マイク	×	○	×	×
CD/VIDEO	×	○	×	×
デジタルイン	○（設定要）(3)	○（設定要）(3)	×	○（設定要）(4)

○：対応しています　×：対応していません

(1) 「拡張設定」で「ステレオエキスパンダー」をONにしてください。
(2) 「拡張設定」で「Digital Outを使用する」を有効にしてください。
(3) 「Digital In」で「Loop Back S/PDIF In to Front Speaker」を選択してください。
(4) 「Digital In」で「Loop Back S/PDIF In to S/PDIF Out」を選択してください。

故障かな？と思ったら

正常に動作しないときは、この表を参考にしてお調べください。これらの処理をしても直らないときやこれ以外の症状のときは、「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（SE-150PCI）」「故障状況」をできるだけ詳しく、お買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

症状	原因	処置
デバイスを認識しない。	• 接続が不完全。	• 10～12ページを参考に、オーディオボードが確実にPCに接続されているか、確認してください。
	• その他のデバイスとIRQなどのリソースが競合している。	• ボードを取り付けるPCIスロットの位置を変更、または利用していないオンボードデバイスをBIOSから無効に設定をします。
音声が出ない。	• ミュートされている。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、ミュートのチェックをはずしてください。
	• 出力レベルが小さい。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、各音声出力のレベルを適正な値に調整してください。
	• 他の音声出力デバイスが使用されている。	• コントロールパネルにある「マルチメディアのプロパティ」を開き、「再生」の「優先するデバイス」から本製品を選択してください。それでも出力されない場合は、「優先するデバイスのみ使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• ラインアウト端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。その際、ケーブルに問題がないか併せてご確認ください。また、外部アンプやスピーカーの電源やボリュームを確認してください。
左右の音量バランスがかたよっている。	• バランスが中央に設定されていない。	• Windowsのタスクバーにあるスピーカーのアイコンを右クリックして「音量の調節」パネルを開き、バランススライドバーで調整してください。
	• 外部アンプあるいはスピーカーに問題がある。	• 外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。

故障かな？と思ったら

症状	原因	処置
5.1chデジタル出力ができない。	• 使用しているソフトがSE-150PCIでのデジタル出力に対応していない。	• SE-150PCIの仕様はデジタル出力に対応しています。対応確認済みDVDプレーヤーソフトの最新情報は当社ホームページをご確認ください。 • ドライバのバージョンやOSによって対応状況が異なります。詳細は当社ホームページをご確認ください。
	• Windows 2000 Professionalで、Service Pack 3以降のインストールがされていない。	• Service Pack 3以降をインストールしてください。
ライン音声が入力できない。	• ライン入力の接続が不完全。	• 外部からライン入力に確実に接続してください。
	• 外部機器から音声が出力されていない。	• 外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。
音が途切れる。	• 音声出力や入力中に、負荷のかかる作業をしている。 • CPUの処理が再生に追いついていない。	• 録音等をされる場合には、CPUに負荷のかかる作業は控えてください。 • CPUが推奨スペックを満たしていない場合は期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でもCPUが非常に高負荷の状態である場合は音が途切れることがあります。この場合は他のアプリケーションをすべて終了してください。
	• DVD再生時、グラフィックカードのハードウェア再生支援機能を持っているPCで、機能が動作していない。	• DVDプレーヤーソフト側でハードウェア再生支援機能を有効にしてください。
雑音が多い。	• テレビなど、強い磁気を帯びたものの近くに置いている。 • 各入出力端子の接続が不完全。 • 外部スピーカーに問題がある。	• テレビなどから十分に離して置いてください。 • 13ページを参照して確実に接続してください。 • 接続するスピーカーの製造元にお問い合わせください。
CD-ROMドライブからの音声が出力されない。	• CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない。	• システムがCD-ROMドライブからのデジタル音声ストリームに対応していない場合、ドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROMドライブの音声出力（ヘッドホン出力等）をライン入力に接続し、音量を適当な値に調節してください。

製品の故障により、正常に録音できなかったことによって生じた損害（CDのレンタル料等）については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名　SE-150PCI
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

お客様ご相談窓口

電話でのお問い合わせ：
ナビダイヤル 0570-01-8111
（全国どこからでも市内料金で通話いただけます）
または 072-831-8111（携帯電話、PHS から）

サポート時間：月～金曜日
（土日祝、弊社休日を除く）
9:30 ～ 17:30

FAX でのお問い合わせ：072-831-8124

手紙でのお問い合わせ：
〒 572-8540
大阪府寝屋川市日新町 2 番 1 号
オンキヨー株式会社
カスタマーセンター宛

メールフォームによるお問い合わせ：
http://www.jp.onkyo.com/ から
オンキヨーホームページを開く
↓
▶ サービス・サポートをクリック
↓
「メール（フォーム）によるお問い合わせ」の「PC周辺機器に関するご購入相談・機能取扱」をクリックしてください。

製品に関する最新情報などは：
ホームページアドレス
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/
をご参照ください。

メモ

メモ

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日： 年 月 日

ご購入店名：

Tel. ( )

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/
http://www.jp.onkyo.com/wavio/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：カスタマーセンター
ナビダイヤル☎0570(01)8111（全国どこからでも市内通話料金で通話いただけます）
または☎072(831)8111（携帯電話、PHSから）

Printed in Japan
D0410-1

SN 29343906

(C) Copyright 2004 ONKYO CORPORATION Japan. All rights reserved.

* 2 9 3 4 3 9 0 6 *